

オーストラリアに残る旧日本軍資料の全貌を明かす新資料

オーストラリア国立戦争記念館所蔵 旧陸海軍資料目録

Catalogue of Source Materials
of the Japanese Imperial Army and Navy

田中宏巳 編



炎上した日本軍集積所を調査するオーストラリア軍(ニューギニアのマダンにて)

連合軍がニューギニア戦線で捕獲・蒐集した資料と戦後のラバウル収容所の生活に関する資料の目録と解説を収録。南方戦線史と戦後日本の復興史研究に貴重なマニュアル。

緑蔭書房

(序)より

旧陸海軍の文書文献資料（以後資料という）だけでなく、太平洋戦争中および前後の資料が、戦後どのようにになったか、換言すれば焼却、接收、散逸、移管、保存のいずれの運命を受けたのか、焼却を免れた資料が現在どこに、どのように扱われているか、といった調査が、いわば編者のライフワークである。

天皇と日本政府の降伏が伝えられるとともに、海外や国内に展開する旧陸海軍は、機密事項が連合軍側に漏れるのをおそれ、一斉に文書類を焼却した。しかし膨大な文書を完全に焼却するのは不可能であり、一方で意図的に保存されたものもあり、また印刷された資料は焼却を後回しにされて残ったものや、戦争中、戦地で連合軍によって捕獲されたものもある。

このように戦後まで残った資料は決して少なくない。だが戦後という変動の激しい時代の中で、残った資料が受けた扱いも厳しく激しいものであった。内地で残った資料のうち、連合軍に接收された資料は、連合国の財産に組み入れられたままのものと、十数年後に返還されたものとに分かれる。また接收をまぬがれて秘匿された資料は、個人の所有になっているものと、関係機関に提供されて同機関の所蔵になったものにと大別できる。これらの資料は整理されて閲覧に供されるものがある一方で、分散して行方不明になったり、未整理のまま放置されたり、あげくは処分されるなど、戦後といえども無惨な扱いを受けた例は枚挙にいとまない。こうした事情から、紆余曲折を経て今日まで残った資料が、いまだどこにあるか、それはどのような性格のものか、現在どのように保存されているか、を調査する必要性が生じてくるのである。

歴史を明らかにする上で、資料の価値を説明する必要はないだろう。資料のほかには、関係者を証人とする証言があるが、歴史の証人になりうる関係者はだいたい高齢で、記憶の危うさ、感情の強さ、主観に基づく論理の強引さ等を考えると、証言はむしろ歴史構成を誤る危険性が少なくない。今後、太平洋戦争に関する証言は、関係者の高齢化によって日増しに困難になり、資料に対する依存度がますます高まることが確実である。そのため平素から資料の所在や現況について十分に調査し、いつでも活用できる状態にしておくことが重要である。

AWM82は、マッカーサー司令部の下で情報活動をしたATIS（連合軍通訳翻訳局）が主にニューギニア戦線、一部をフィリピン戦線で収集した資料と、終戦とともに降伏したラバウルの陸海軍が帰還まで送った収容所生活に関する資料の2つから構成されている。前者は、ATISが収集した資料のうち、戦時中軍事的価値が低いとしてBランク扱われたものだが、ATIS資料の大部分を持ち帰ったアメリカが、1960年頃処分した結果、AWM82が唯一のATIS資料となった。また戦後降伏したラバウルの日本軍が収容所内で発翰した文書類は、降伏後のものがこれほどまとまって残った例は他になく、それだけでも高い価値を持っている。その上、降伏後の収容所生活に対する認識を一変させるだけの内容を持っており、今後、歴史学に一石を投じることはまちがいない。

—— 略 ——

<注1> 本目録ではこれらの資料をAWM82[1]とした。
<注2> 本目録ではこれらの資料をAWM82[2]とした。

本書は

本書は、オーストラリアのオーストラリア戦争 Memorial) のリサーチ・ナンバーA1資料(公文書類のほか通帳、軍人手牒など)である。

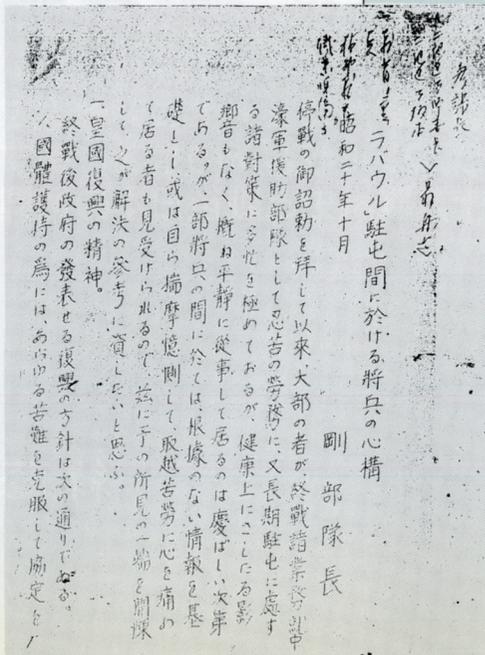
本書の内容見本

II. AWM82 [2]

口演 南東方 25.7×18.5 縦書き 紙綴り (内容) 一～六項目 一、……日 持シ…… 口友好的 二、陸海将 四、集団ノ 五、…… 実施セラ 六、…… 紙炭産出 軍人ノ帰 省次官ハ 産、第二 慮シアリ

2/178 BOX26 rabauru chutonkan ni okeru 「ラバウル」駐屯間に於ける 26.0×18.0 紙綴りとじ (内容) 一、皇国後 終戦後 1. 国 行し、 5. 大 二、皇国後 三、内地 隊 隊 (1) 引 其 (2) 引 其 (3) 引 以上 考へる には手

資料AWM82の原本見本



BOX26

26.3×18.5 藁半紙半べら及展開 16枚(表紙共) 両面使用

ガリ版 縦書き 紙縫り

(内容) 三、保護收容中ノ外国人ノ状況

……外国人ハ欧米人ト支那人トニ区分シ前者ハ「ビタガリップ」ニ後者ハ「ランゴール」外三地区ニ收容シ一定ノ土地ヲ与ヘ一部ノ医療品糧食ヲ与ヘ大部ハ各人ヲシテ自活セシメアリ……其ノ民族性慣習宗教ノ自由ヲ尊重スルハ勿論收容地区内ノコトハ凡テ彼等ノ自由ニ委セリ

「ビタガリップ」欧米人收容地区 総計158名

ドイツ	105名	アイルランド	5名
オランダ	19名	イギリス	6名
オーストラリア	12名	アメリカ	2名
フランス	5名	……	

2/301 BOX29

58.huryo ippan gaijin oyobi genjumin no jokyo

俘虜一般外人及原住民ノ状況 昭和二十、八、三十 南東方面軍司令部

27.3×18.5 藁半紙半べら及袋とじ・糊付け大判紙

21枚(表紙共) ガリ版 縦書き 紙縫り

(内容) 俘虜名簿、内地後送俘虜名簿、病死俘虜名簿、遭難俘虜名簿、海軍部隊ニ交付セル俘虜名簿、俘虜名簿(マレイ方面ヨリ転送セラレタルモノ)、病死俘虜名簿(当軍作戦地域以外ヨリ転送收容セラレタルモノ)、他方面ヨリ転送セラレタル俘虜名簿、一般外人勤務部隊状況表(昭和二十、八、三十)

2/302 BOX29

huryo no jokyo

俘虜ノ状況 昭和二十、八、三十 南東方面軍司令部

24.0×18.5 藁半紙半べら及袋とじ・糊付け大判紙

21枚(表紙共) ガリ版 縦書き 紙縫り

(内容) ……俘虜ノ取扱ハ国際諸法規ニ準拠シテ実施シ給与及衛生指導ハ日本軍ト同様ニセルモ食住ノ変化竝ニ我ガ補給ノ杜撰ト戦況ノ苛烈化ニ伴ヒ資材ノ窮乏及壕外行動ノ危険増大ヲ来シタル為之等ノ施策ヲ不如意ナラシメ爾後衛生成績逐次低下セリ

2/303 BOX29

koho gaikyo

後方概況 昭和二十、八、二十五 南東方面軍司令部

26.0×18.5 藁半紙半べら及袋とじ・糊付け大判紙

33枚(表紙共) ガリ版 縦書き 紙縫り

(内容) 四、馬匹

二、2 糧食ノ現地生産ノ為ノ既耕地面積ハ約四四〇〇町歩ニシテ完全自活ノ為ニハ今後更ニ約二八〇〇町歩ノ拡張ヲ必要

本書の内容見本

オーストラリアの首都キャンベラにある戦争記念館(Australian War Memorial)が所蔵するコレク
AWM82に収められた旧陸海軍
の日記、メモ帳、預金
の目録と解説を収めたもの

南東方面軍司令部 昭二十三年
藁半紙半べら 3枚 ガリ版刷 表裏使用
紙縫りとじ
目録
日本民族ト皇軍ノ矜持トヲ心ニ藏シ礼讓ノ間武土
・(濠洲軍人に対して) 敵対思想ヲ以テ目スルコ
ノ態度ヲ以テ緊密ナル連絡ヲ保持シ……
兵ニ対シ一視同仁ノ統率ヲ行フベキコト……
内務中防慮及清潔ノ保持ノ励行……今後重大
実ニ火災予防ニ存ス……
昭和二十四年四月ヨリハ遥カニ速カニ(※帰還
ルベキハ確実ト思考セラル……以テ諸官ハ部
緊張ヲ保持シ相競ヒテ母国ニ現地生産品ノ多量ヲ
幾分ニテモ内地同封ニ寄与スルノ気概ヲ養成セン
内地ノ情況ハ我等ノ予想以上ニ逼迫シアリテ即
出ニサヘ勤勞力ノ不足ヲ訴ヘ有為且鍛錬セラレ
還ヲ要望スル声日々ニ高く之ニ対シ十二月十一日
議会ニ於テ「国家産業ノ急ニ応ゼンガ為帰還順序
交通通信、第三鉱産就中炭業要員ヲ優先タラシム
」ト言明セル……

eru shohei no kokoroe
将兵の心構 昭和二十年十月 剛部
藁半紙袋とじ 11枚 ガリ版刷
縦書き
復興の精神
政府の発表せる復興の方針は次の通りである。
保護持の為には、あらゆる苦難を克服して協定を
、信を中外に求むること。
いに科学教育を進めて、産業を振興すること。
復興の意義

帰還の時機(77)
政府の発表によれば昭二十三年末を目的地として、外地軍
並に居留民の引揚を完了する意図を有して居る。
引揚の順序は満洲、支那、比島、中部太平洋、濠洲方面及
の他(マライ、ジャバ、スマトラ、ボルネオ、セレベ
等)とし、自活困難なる所は優先的に配慮する。
使用船腹は目下の所約十万噸を之に充当し……
の情報、各地の邦人数、現地自活の程度、其の他を綜合し
ると、吾々「ラバウル」将兵の帰還は昭和22年の初め頃
が着けられることにならうと推察される。

本目録は

- ①本目録は資料名だけでなく、資料の概要や重要文書の細部まで記録した。
- ②AWM82にはどのような資料があるか、それらの資料からどういう情報を引き出せるか、どのようなテーマの研究ができるか等が、本目録を一瞥すれば理解できるように編集した。
- ③AWMのリサーチセンターで資料を閲覧する場合、本目録の番号を請求すれば希望資料はもちろん、それ以外の資料も入ったホルダーごと借り出すことができる。
- ④資料(AWM82)の歴史と内容についての詳細な解説を付した。

太平洋戦史、敗戦後の抑留・引き揚げ史研究のための手引書！

オーストラリア国立戦争記念館所蔵 旧陸海軍資料目録

田中宏巳(防衛大学校教授)編

- ◆体裁 B5判・上製クロス装・ケース入り
- ◆定価[本体15,000円+税]
- ◆ISBN4-89774-028-2 C3031

〈平成12年9月刊〉

〈本書に収録した資料の内容と特色〉

資料：AWM82[1]について

【内容】マッカーサー司令部の下で、情報活動をしたATISが主にニューギニア戦線（一部はフィリピン戦線）で捕獲収集した資料を中心に収録。資料は総数415点で二つに分類される。日誌・名簿・送達接受文書等の公文書類と、軍人手牒・私的なメモ帳・郵便貯金通帳等の個人的所有物である。

【特色】①太平洋戦争史・ニューギニア戦史研究に不可欠な資料 ②公文書類は、日本本土の原隊や師団司令部に移管されることなく部隊と共に移動してきたものがほとんどで、そのため同じ文書は日本国内にも存在しない唯一のもの ③部隊構成の変遷、将兵の経歴等を知る重要な手がかりとなり、入営前の職業など個人情報が多く、軍隊の内部を見るには格好の資料 ④派遣命令を受ける前に駐屯していた朝鮮や中国での書類が多数含まれる。

資料：AWM82[2]について

【内容】ラバウルでオーストラリア第8軍に降伏した陸海の日本軍が収容所生活を送った際、司令部、各機関や豪軍との間でやりとりした文書総数353点を収録。降伏直前から帰還に至る約10ヶ月間の日本軍兵力の調査、豪軍との降伏交渉から集団編成、自給自足、帰還準備等の書類である。

【特色】①収容所内で発翰された書類で唯一まとまって残った資料 ②戦後のラバウル駐屯軍の収容所生活に関する貴重な記録 ③ラバウル戦争犯罪裁判の解明や、今村均大将（第八方面司令官）の人物史研究にも貴重な資料 ④南方に派遣された徴兵・徴用の朝鮮人・台湾人に関する書類が多数含まれている。

※表紙の写真は『米軍が記録したニューギニアの戦い』（1995年、草思社）より転用した。

緑蔭書房

東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

00.9.50

下記の書店にお申込み下さい。